

11月定例活動「里山体験会」

伊藤 百寿人・伊藤 晶子

(午前の部：自然観察会)

前日から急に冷え込み、当日の予報も芳しくなくて、あいにくなことにも間際の欠席者が多く出てしまいました。しかし悪天候に関わらず、出席した方々は元気いっぱいの様子。開会の挨拶、柔軟体操の後、各班に分かれて自然観察に出発。参加者の年齢その他が様々なので、まずオアシスの森に興味を持ってもらうことに主眼を置きました。

説明の途中、ところどころにクイズを入れて、答えを探しながら歩いていくと寒さも気にならなくなってきました。今年はドングリが不作で淋しい秋でしたが、展望台の周りではガマズミ、シャシャンボ、ズミ、アオハダ、ソヨゴなどがしっかりと実を付けていました。ここでの木の实探しと試食を大人も子供も大いに楽しみました。そちらこちらの松枯れに皆さん顔を曇らせていましたが、根元に芽生えた松の木の赤ちゃん探しに顔が晴れました。

トンボ池を巡り、野辺の小径をたどっていくと、村田さんと野浪さんが早朝から火を入れてくださった竹炭焼きの煙がたなびいて、まさに里山の風情を醸し出していました。竹炭焼きを見学して竹林

に入り、最後のクイズを楽しんでつどいの広場に戻り、昼食となりました。オアシスの森に興味を持ってもらえたと思います。(伊藤 晶子)



↑クイズを交えて説明するスタッフと参加者。



(午後の部：竹のクラフト)

午後は竹のクラフト作りに取り組みました。

竹のクラフトでは、約10点の完成した見本がテーブル上に並べられ、これをお手本に指導員の指導よろしく、鋸やナイフなどの日頃不慣れな刃物を使用しての工作に手が弾みました。

一方、創意工夫による独自の構想を取り入れた、二つとないオリジナルな作品を完成させた頑張り屋の児童もいました。

また、一作だけに満足できず、いくつも手を染めた猛者もいて、テントの中は和気あいあいと寒さも何のその、皆燃えているようでした。

いつものことながら、行事に参加された親御さんが異口同音に話される言葉に「懐かしいなあ！子供の頃はよく作って遊んだものです。」と、あの頃からの長いブランクがあって忘れていた幼い日の郷愁に、どっぷりと浸かった感の顔が自然に弛んでくるようです。

そんな方々のために親子のコミュニケーションを保つ手段として、自然との関わり合いがぜひ必要不可欠ではないでしょうか。(伊藤 百寿人)



↑自分たちで作った竹の水鉄砲で遊ぶ子どもたち。
“それっ！ピュー！”

ビフォーアフター ～「ビートルアパート」のリフォームしました 大館 学

匠：竹材と枯葉の魔術師

依頼人：カブトムシ達

11月22日里山体験会のその日に、竹が古くなってすぎ間風が吹き込み、また見栄えの悪くなった「ビートルアパート」から改修の依頼がありました。

そこで匠としては、先月の「どんぐり祭り」で出た多くの竹材が山根口の竹林の中に積まれているのを有効に活用しない手はないと考えました。「ビートルアパート」の腐葉土の中には、カブトムシの2～3齢幼虫がすでに入居中で、彼らの生活を乱さないようにと、作業は少人数でかつ慎重に行いました。定尺に切りそろえた3年生竹材と大径の木杭を用意してから、一気に古いアパートの骨組みを除去し、すぐさま新しい杭を打ってさらに竹材を井桁に組んでシュロ縄で縛る手順で、あっという間にリフォームがで

きました。

山根口のアパートを完成してから、さらに散策エリアの入り口近くのアパートも改修し、匠ならではの「一日で2軒のリフォーム」の偉業が達成出来ました。

今年は秋の到来が遅かったせいで、まだ林内には枯葉が少ない様子ですが、森



↑リフォーム前 (ビフォー)

すっかり老朽化し、見るも無惨なビートルアパート。すぎ間風がカブトムシたちを襲い、森の景観にも良からぬ影響を及ぼしていました。

くらぶの皆さん、「ビートルアパート」の近くへ来たときは、是非枯葉をアパートの中に入れて快適な生活空間を彼らに与え、リフォームの完成度をさらに高め丈夫なカブトムシが育つよう協力をお願いいたします。

～リフォームの匠より～



↑リフォーム後 (アフター)

なんということでしょう!! (加藤みどり風に) 匠の手によって、わずか短時間でみごとに生まれ変わりました。これでカブトムシたちも寒い冬を快適に過ごせることでしょう。